

按、頭面諸陽之會、凡物刎首無不死者、唯諸蛇、蜈蚣、雞、龜、鼈、鯉、鮒、鰻、鱧、少時動搖而已。

〔古事記上〕所殺迦具土神之於頭。所成神名、正鹿山。上津見神。

〔古事記傳五〕頭は御加志羅と訓べし、和名抄に首加字倍、頭訓同上、一云賀之良とあれど、又願加

之良乃加波良、鬻體比止加之良なども有て、加之良と云ぞ正しき名なる、美久志と訓は、凡て貴

長とはいはで、然云めれど、久志はもと髪のことか、くしけづりと云べきを、略て然云はたり、へば髪

をげづる具なれば、櫛をも久志とは云か、そはくしけづりと云べきを、略て然云はたり、へば髪

丁がつかふ刀なれば、櫛丁刀なるを、やがて其をも櫛丁とのみも云、田子の持つ桶なれば、田子

桶なるを、田子と俗の云も同じ、さて髪のある處なるゆゑに、頭をも美久志とは云か、加字倍も

髪方なり、まかはあれど、櫛の名はいと古ければ、此を本にて、其を刺處なる故に、髪をも頭をもいふなるべし、いかにまれ、頭をいふは古語ならじ。

〔三代實錄三十三〕元慶二年六月七日辛未、出羽國守藤原朝臣興世飛驒奏言、○中今月七日重遣宇

奈麻呂、登高候望、俄爾遇賊、拔劔相闘、斬首二級。

〔源氏物語三十六〕御身よわうてはおこなひをもし給ひてんや、かつはつくろひ給てこそと聞え

給へどか。し。ら。ふ。り。て。い。と。つ。ら。う。の。給。ふ。と。お。ぼ。し。た。り。

〔今昔物語二十八〕左京大夫付異名語第二十一

今昔村上ノ天皇ノ御代ニ、舊宮ノ御子ニテ、左京ノ大夫ト云フ人有ケリ、長少シ細高ニテ、極クア

テ、○アテニ字原缺、以ヤカナル様ハシタレドモ、有様姿ナム嗚呼ナリケル、頭ノ鍔頭ナリケレバ、

纓ハ背イニ不付ズシテ離レテナム被振ケルニ、色ハ露草ノ花ヲ塗リタル様ニ青白ニテ、瞞皮ハ

黒クテ鼻鮮ニ高クテ、色少シ赤カリケリ。○下

〔發心集三〕伊豫僧都の大童子頭光あらはる、事

奈良のみやこに、伊豫僧都といふ人ありけり、白河院のすゑにやあひ奉りけん、ちかき世の人な